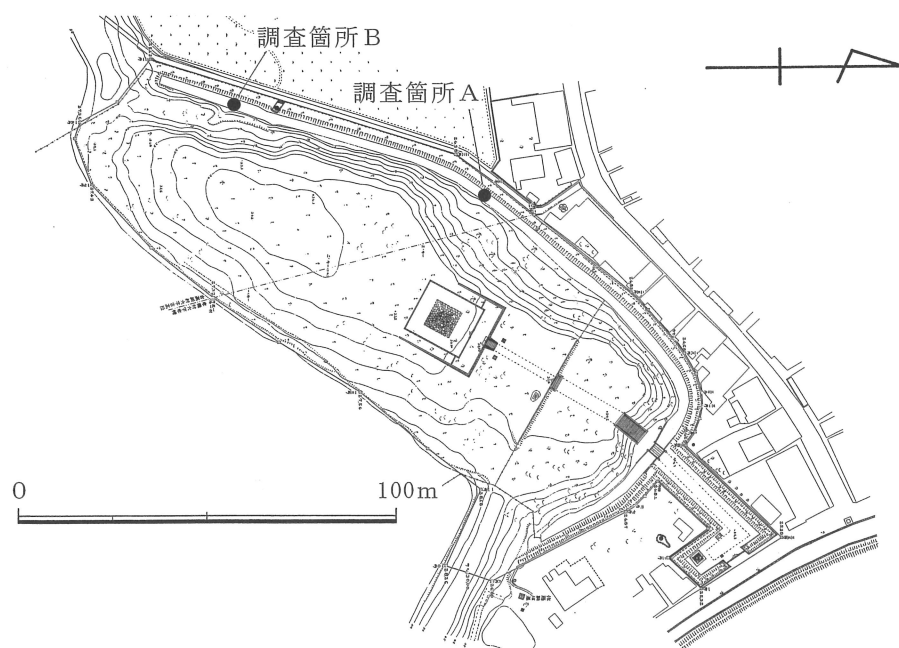




第51図 神櫛王墓 調査箇所位置図 (1/2000)

下坂本陵墓参考地外構柵設置工事箇所の立会調査

下坂本陵墓参考地は、滋賀県大津市木の岡町字木ノ岡山にあり『諸陵雑事注文』(正治2年)に「近江国木岡御陵」の記述があることもあり、明治26年12月に陵墓参考地に治定されている。本地とする丸山古墳を中心として、い号(御前塚)・ろ号(首塚)・は号(茶臼山)・に号(車塚)・ほ号(新古墳)の5箇所の飛地がある(第52図左)。このうち、は号は全長80mを越す前方後円墳であり、その他は直径20m前後の円墳(もしくは方墳)である。

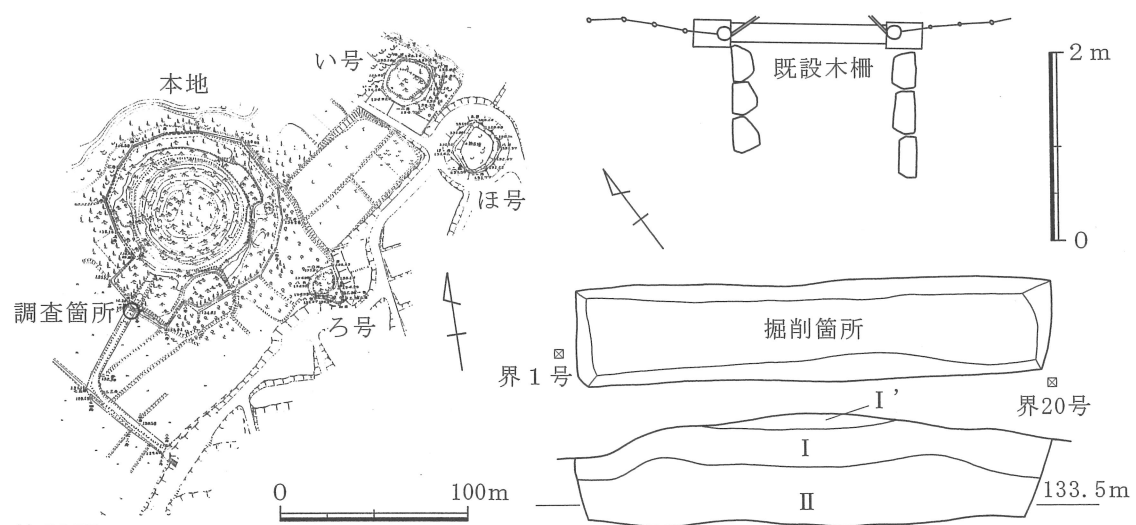
さて、本地は全長70m強の帆立貝式前方後円墳の形状を示すが、その入口にある木柵が経年のため腐食してきたので石柱鉄扉に改修することになり、併せて参道に擬木柵の設置工事(延長約137m)と、転落防止用のパイプフェンス設置工事(延長約48m)が計画された。鉄扉改修工事箇所はちょうど前方部正面端部にあたることから、遺構・遺物の確認を目的とし、遺構が検出された場合には、その保存策を考究するための本部立会調査を、平成15年11月10～14日にかけて実施した。また、その他の工事箇所については11月18～21日にかけて監区職員による立会調査を実施した。以下、調査の所見を併せて報告する。

鉄扉設置工事箇所については、既存の木柵の手前に基礎コンクリート打設部分として長さ約5.2m・幅約0.9～1.1m・深さ約0.8～1.2mを掘削した(第52図右)。この掘削箇所は現参道の突きあたり部分であり、スロープ状の階段が設置されているところである。掘削箇所の土層は大きく2層に分けられる。上層(I)は表土であり、図からもわかるように中央部分が盛り上がり、かつ階段を設置した際の盛土であると考えられる。その下には暗黄褐色を呈する、粘質土層(II)が検出された。この土層は締まりのない土質であり、所々に黒色土も混じることから、本

地から土を掻き出すようにしてスロープ状に整地した際の盛土と考えられる。遺物はまったく含まれていなかった。

その他、擬木柵・パイプフェンス設置工事箇所については基礎部分をそれぞれ0.2～0.4 m四方、深さ0.4～0.8 mを掘削した。いずれの箇所でも、周囲にある畑の耕作土と同様の黒色土のみが検出され、遺構・遺物は出土しなかった。

以上、今回の調査では遺構・遺物はまったく出土せず、本来の墳丘に関する情報などは一切得られなかった。よって、工事はいずれも、予定通り施工した。(徳田誠志)



第52図

下坂本陵墓参考地 調査箇所位置図 (1/4000) および調査箇所平面図・断面図 (1/80)